

1 学校研究主題

互いに高め合う、活用力ある生徒の育成
～主体的な学びを求めて～

(1) 主題設定の理由

令和元年度、「中間層の人数を増やす」ことを中期目標として、授業改善や学習強化週間に取り組んだ。検証テストの結果、2年生については、偏差値50以上が増加、45以下が減少、平均偏差値が上昇して、目標に対して一定の達成があったと言える。1年生は、中間層を膨らませることはできなかったところに課題を残しつつ、平均偏差値においては上昇させることができた。

その上で、誤答分析より「テキストからの情報を吟味したり関連付けたりしながらそれを根拠として自分の考えを一定の条件のもとで過不足なく書く」ことが苦手であるという実態が依然としてある。その根底に、文章・資料の構成や内容を的確に捉える力、根拠を明確にして説明する力が不十分であることが考えられる。このような力をより精度の高い「学び合い」の授業の中で鍛えながら、さまざまな課題に対し既習を活かして思考・判断・表現できる活用力を育成していくことを目標とする。以上により、本主題を継続して設定する。

(2) 副題設定の理由

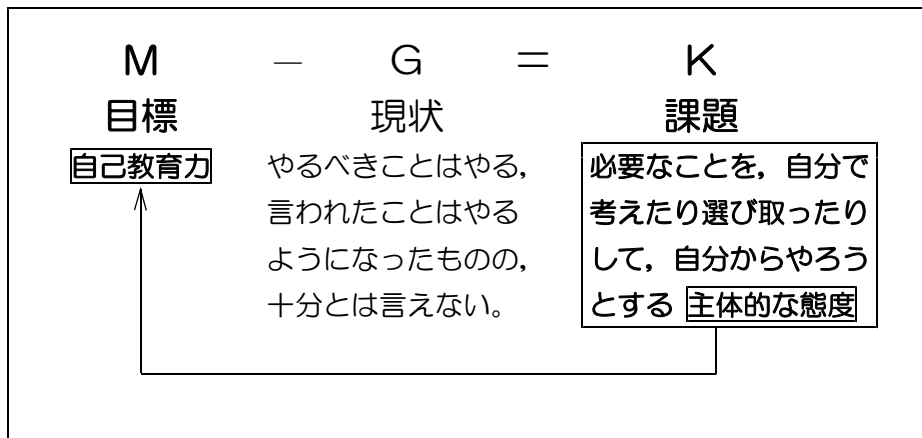
令和元年度の取組とその検証により、本校生徒の現状として、学習に前向きに取り組もうとする姿勢は育まれつつあると捉えられる。ただ、その姿勢が「主体的」とまでは言えない、また、学年間で意識や取組の差があるという課題が残る。研究の方向性は間違っておらず、一定の成果があったとして、今年度はより改善をして推進する。

一方で、質問紙の回答状況より、主体的な態度・主体性の伸長には、「自己肯定感」の向上が鍵であると考えられる。学力向上の要因の一つとして、今年度の取組には、これを手掛かりとしていく。

| 質 問 | 1年 % | | | 2年 % | | |
|---|------|----|-----|------|----|-----|
| | 6月 | 1月 | 増減 | 6月 | 1月 | 増減 |
| 挙手に挑戦した。 | 52 | 47 | -5 | 48 | 38 | -10 |
| 授業では、自分の考えを話したり書いたりしている。 ☆ | 68 | 67 | -1 | 71 | 74 | +3 |
| 授業で自分の考えを話したり書いたりするとき、うまく伝わるように根拠を示したり組み立てを工夫したりするなどしている。 | 60 | 64 | +4 | 60 | 62 | +2 |
| 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。 | 64 | 72 | +6 | 71 | 77 | +6 |
| 自分の考えや意見を表現することは得意だ。 | 49 | 48 | -1 | 50 | 41 | -9 |
| 朝学習や基礎学習に、すすんで取り組んでいる。 | 79 | 90 | +11 | 76 | 92 | +16 |
| 自分には良いところがあると思う。 ☆ | 53 | 52 | -1 | 64 | 74 | +10 |
| 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う。 ☆ | 64 | 55 | -9 | 67 | 81 | +14 |
| 将来の夢や目標を持っている。 ☆ | 71 | 64 | -7 | 60 | 67 | +7 |
| 家で自分で計画を立てて勉強をしている。 | 59 | 60 | +1 | 50 | 54 | +4 |

(3) 本校の課題

☆ 主体的な態度 > 自己肯定感



2 目指す生徒像

七尾東部の定義する学力

「主体的に課題に取り組み、習得した知識・技能を活用して対話的に課題を解決する力」

- ・ 自己の行動目標を設定し、またそれを振り返って次につなげることのできる主体的な態度を持った生徒。
- ・ 対話的・協働的な学習活動を通して、既習の知識・技能を活用して、自分の考えを広げたり深めたりできる生徒。

3 研究仮説

すべての教科において、教科の枠を越え、思考・判断・表現する「学び合う」場面を中心とした授業を行えば、またそれを位置づけた単元計画を実施すれば、生徒の活用力ならびに主体性は向上するであろう。

4 研究の重点

【学びの12か条+プラス】 本校の重点項目

I 【活用力を高める授業づくり】

- 2 自ら課題を発見し、主体的・協働的に課題を解決する力の育成

II 【学力・学習を支える基盤づくり】

- 6 よりよい解決のための質の高い学び合いのプロセスの重視
8 よりよい学習習慣・生活習慣の定着

III 【指導改善を進める体制づくり】

- 1 1 現状把握に基づき、取組の実施・評価・改善を図る指導体制の確立

5 具体的な取組

(1) 授業づくり

- ①主体的に学ぶ姿を引き出すために、必要感と知的向上心を喚起する課題設定を行う。
- ②対話的な学びとするために、「学び合う」場面を位置づけた単元計画を行う。
- ③深い学びを目指して、「適用」の場面を位置づけた授業スタイルを確立する。
- ④その他
 - ・授業づくりについて、学習集会や校内研修会を通じ、生徒と生徒、生徒と教師が共通理解を図る。（「七尾東部スタンダード」「授業スタイル」）
 - ・若手教員早期育成を念頭に置いた授業改善の推進と校内 OJT を計画・実践する。

(2) 基盤づくり

- ①帯タイムの実施による学力補充
 - ・朝学習（10分）、基礎学タイム（昼10分）を設定する。
 - ・朝学習は、教科を固定し、反復学習を行う。
 - ・基礎学タイムは、週ごとに教科を指定し、月～木でドリル学習、金で確認テストを行う。
- ②家庭学習の充実
 - ・曜日毎に教科を定め（曜日課題）、家庭学習の調整と計画的な実施を行う。
 - ・定期テスト10日前から家庭学習時間調査を行い、全学級の平均時間を毎日可視化・掲示し、意識の向上を図る。
- ③学習強化週間の設定
 - ・計画的に強化週間を設定し、対策問題の実施や学力補充を行う。
 - ・教科部会が中心となり、学年の枠を越えて、学習状況を把握し、計画を立てる。
 - ・帯タイム、曜日課題、週末課題、授業を組み合わせる計画を立てる。
- ④ICTの活用
 - ・機器と環境の整備をし、活用を推進する。

(3) 体制づくり「学力向上ロードマップ」

- ・学期1回のチーム会議を設定し、共通理解と共通実践を図る。
- ・チームリーダー会議（＝研究提案 PA チーム 会議）を週時程内に設定する。
- ・研究提案（PA）チームからの提案について、校内研修会や職員会議で共通理解を図る。
- ・研究推進（D）チームの中にモニタリング機能を設定し、確実な実践につなげる。

| | | |
|-----------------|---|---|
| 総括チーム | ◎学校長 教頭・主幹 研究主任 | ・方針決定と目標設定 ・実施状況のモニタリング |
| 集計分析チーム | ◎進路指導主事 進路指導 | ・学力調査採点・入力・分析スケジュールの提案と 分析シート作成 ・現状把握，原因分析，課題の明確化 |
| PA 研究提案チーム | ◎研究主任 研究補佐 チームリーダー | ・授業改善・学力向上プラン提案 ・校内研修・若プロ研修で教育情報を提供 |
| D 研究推進チーム | ◎授業チーム 研究補佐 生徒指導・保健環境 ◎基盤チーム 生徒会・教育相談 | ・学力向上プラン実施 ・環境整備と実施状況のモニタリング ・学校研究・授業研究等校内研修の運営 |
| C 検証・研修支援チーム | ◎主幹教諭 教務 | ・検証テストの実施 ・アンケートによる共通実践の達成度と実態把握 ・学力向上プラン実施状況と成果の検証 ・研修計画（校内研修会・若プロ研修） |

6 検証方法

- (1) 学力調査・評価問題，検証テストの正答率・誤答分析を実施し，達成度を確認する。
- (2) 学期ごとに質問紙調査を実施し，回答状況の推移を確認する。
- (3) 研究推進チームによる定期的なモニタリングにより，実施状況を確認する。
- (4) 週案，ロードマップとその別葉に実施状況を可視化し，実施状況を確認する。